



東京多摩プロバスニュース

第 91 号



■事務局: 〒206-0021 東京都多摩市連光寺 3-31-3 滝川方 ■編集・発行: 広報委員会 2020. 11. 4.

■電話・FAX (042) 372-2238 ■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com>

共に学びながら、高齢化社会に貢献しよう

第 195 回 定例会

日 時 : 令和 2 年 9 月 2 日 (水) 午後 1 時 30 分より

場 所 : 関戸公民館第 3 学習室

お客様 : 永井峰子様

出席者 : 16 名(会員数 28 名)

第 196 回 定例会

日 時 : 令和 2 年 10 月 7 日 (水) 午後 1 時 30 分より

場 所 : 関戸公民館第 2 学習室

出席者 : 20 名(会員数 29 名)

理 念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする



ごあいさつ



巻頭言

東京多摩プロバスクラブは創立第 17 期を迎え会員 29 名が活動し会友 5 名を有します。新型コロナ禍の中変則的なプログラムで進行しており、今期は 7 月 1 日 (水) に定期総会を、幹事としては 9 月 2 日が初例会となりました。

この状況下で 29 名中 5 名が、新しい会員であり頼もしい限りです。

コロナ禍は当分継続すると危惧しますが、我々の叡智と勇気で乗り越えていきたいと思ひます。

高齢の仲間が元気強く活動している姿が、周りに感動を与えられれば幸いです。

飯作金彦幹事



風の橋 ; 落合地区から鶴牧地区商店街につながる橋

1. 幹事報告

1.1. 活動報告

令和元年5月に創立15周年を祝い、順調に第16期がスタートしたが、令和2年に入ってコロナ禍のため、今期後半の活動は自粛を余儀なくされた。書面による表決総会にて新体制を発足させる一方、徹底した感染防止を心掛けて9月より定例会を開催している。

発足した会員増強プロジェクト(第17期から「会員委員会」として発足)などの活動成果として、この間に5名の新会員を迎えることができた。その一方高齢・病気等による休会・退会者も多く結果として会員数の増加につながっていないのは誠に残念である。

コロナ禍終息が見えない中、一層の感染防止に心掛けて活動していきたい。

1.2. 会員構成 令和2年11月1日現在(敬称略)

会員：29名 (内休会6名 上田清・神谷真一・鈴木達夫・滝川益男・滝川道子・中村昭夫)

会友：5名(青木ひとみ・大澤亘・瀬尾日出男・永島仁・蓮池守一)

1.3. 新体制に伴うご挨拶

新理事・監査役の就任の案内は書面等により関係各方面に送付した。

1.4. 滝川益男会員の休会と事務局返上の申し出

後任の事務局の人選が急務である。

1.5. 会員の動向

永井峰子氏が9月に見学され、10月に入会された。

1.6. 新任幹事としての心得

次のことを心得として努める。

- ・会長方針に則りクラブ運営する。
- ・定例会では勿論、あらゆる機会に機敏に肅々と間違いのない行動をとる。
- ・定例会進行は穏やかに楽しく、もっと楽しく、そして時間を守る。
- ・会員へのスケジュールのお知らせなどは、各関係委員会と連絡を密にして漏れ防止する。

2. 委員会報告

2.1. 総務委員会

鈴木奏弘委員長

1)9月2日(水)第195回定例会を実施(3月から8月まで未実施)新体制発足にあたり理事・監査役の紹介と新入会員5名の歓迎の意を込めて実施。卓話「多摩プロバスクラブ

15年のあゆみ」登坂征一郎会員でお互いに歴史を振り返り理解を深めた。関連記事P3参照
2)10月7日(水)第196回定例会実施。卓話「イエメン 集落の旅」増山敏夫会員

関連記事P4参照。



総務委員会の皆さん

3) 今後の予定

- ・11月4日(水)第197回定例会 講話「版面という不思議な世界」河内成幸氏(多摩市在住)
- ・12月2日(水)第198回定例会 卓話「武蔵野台地の開発の原点 “まいまいず井戸”」高村弘毅会長
- ・1月13日(水)第199回定例会 卓話「テーマ未定」山田正司会員

2.2. 研修・親睦委員会

小林務委員長

コロナ感染状況を踏まえて研修・親睦の延期または中止しますが、計画は次の通り。

- 1)多摩プロバス忘年懇親会 12月2日(水) 京王クラブ
- 2)定例会後の食事会 2月3日(水) 京王クラブ
- 3)お花見 3月下旬～4月上旬 乞田川畔または聖蹟記念館
- 4)極地研究所・国文学研究資料館見学 5月中旬、立川市内
- 5)全プロバス協議会総会 8月、青森県五所川原市

2.3. 地域奉仕委員会

澤雄二委員長

10月7日、今期初めての委員会を開催して17期の活動計画を確認した。アフリカ外交団とのサッカー試合等ほとんどの計画がコロナ禍で予定が立たない。多摩市の湧水調査は高村弘毅会長が「12月を目途に」と希望表明された。

市民企画講座でコロナ禍をテーマに準備することで意見の一致を見た。

2.4. 広報委員会

伊藤健一委員長

- 1)プロバスニュース第91号を11月4日(水)発行・配布。
- 2)会員各位の自由投稿を大歓迎。
- 3)当クラブのホームページの更新を随時行う。
- 4)今期の新たな活動の取り組みとして“インスタグラム”活用の準備を進めた。今後、会員間の活動等の情報共有、外部への情報発信と交換を深める一助となるよう、会員の協力のもと、育てていきたいと思います。

2.5. 会員委員会

飯作金彦委員長

今年度より発足した委員会としての重責を認識し将来40名の組織となるよう会員増強に努める。

- ・在籍会員を維持しつつ、新入会員の増強に尽くす。
- ・サークル活動を奨励しその方面より新入会者を求める。
- ・入退会者の管理及び休会中の会員へ連絡と再入会の誘い。
- ・今年度目標、3名以上の入会を目指す。

◆◆◆ 新入会員紹介 ◆◆◆

◇永井峰子氏

多摩ロータリークラブ・日野法人会に長く在籍され活躍されておられました。現在も飲食店その他を経営されております。長く日本舞踊を趣味とされ腕前は趣味の域を超えるほどです。機会があればご披露されると思います。今後も多摩プロバスの会員として活躍されていかれる方だと思います。

(清家美紗子会員記)



東京多摩プロバスクラブの歩み[1]

登坂征一郎会員

例年は7月を年度初めとしておりますが、今年度はコロナ禍の影響を受け9月第17期を迎えました。創立以来年々歳々……、会員の顔ぶれも変わり、会員増強プロジェクト飯作金彦会員らのご尽力により新会員が増強されました。

当クラブの歩みを一度振り返ってみては如何との提案もあり、今年度の活動方針でもある“温故知新”の一環として、当クラブがどんな活動をしてきたかを振り返ることにいたしました。

第195回定例会(9月2日)において、当クラブの歩みについて、設立の経緯、どんな活動をしてきたかの一端をお話させていただきました。

上記話したことと異なりますが、第1部として、主として設立の経緯、会報、ホームページの立ち上げについて、第2部として、具体的な活動内容を次号にまとめたいと思います。

1. 東京多摩プロバスクラブ設立

東京多摩プロバスクラブ(以下PC)は、東京多摩ロータリークラブ(以下RC)の35周年記念事業の一環として設立されました。2004年6月20日、RCの創立35周年創立記念式典で東京多摩プロバスクラブの設立が紹介されました。

第759号 平成16年7月1日 多摩ニュー

【35周年】

**東京多摩ロータリークラブが
多摩プロバスクラブ設立**

東京多摩ロータリークラブは、多摩の地で44年6月に設立され、今年44周年を迎えました。今年44周年を記念して、記念事業として、多摩の地で多摩プロバスクラブを設立し、多摩の地で多摩プロバスクラブの活動を展開することになりました。多摩プロバスクラブは、多摩の地で多摩プロバスクラブの活動を展開することになりました。多摩プロバスクラブは、多摩の地で多摩プロバスクラブの活動を展開することになりました。



記念式典でプロバスクラブ会員の紹介

2. 東京多摩プロバスクラブ設立総会

2004年5月18日(火)、午後1時～1時35分；杏花飯店3階バンケットホールにて、RC関係者、PCメンバー16名にて設立総会が執り行われました。この日が当クラブの創立記念日になっています。

この設立のために、RCでは岡野一馬・小西弘純両氏が中心となり、約2年の準備期間に先輩格の東京八王子プロバスクラブの設立状況を参考に検討され、運営に必要なプロバスの旗、点鐘用の鐘などの用品、会場、運営資金を準備され、特に人選については、多種多様な職業の人、多士済々でバラエティに富んだクラブとして、人柄の良い人、奉仕の精神がある人、法律に明るい人、事務能力のある人、技術を持つ人(写真、パソコン、電気関係)遊び心のある人(スポーツ、歌など)など留意を払われたといわれています。

東京多摩プロバスクラブとして初代会長には、現会友の

蓮池守一氏がスローガン『活力ある高齢社会の創造を目指して』を掲げ、当クラブの理念の元、2期にわたって当クラブの礎を築かれました。

3. 第1回定例会；2004年7月7日(水)午後2時～4時、出席者19名、杏花飯店3階バンケットホールにて開催され、以降、毎月第1水曜日午後1時に継続して開催されております。

4. プロバスソングの生い立ち

発足間もなく会員から募集してプロバスソングを自前で作ろうという事になり、いち早く、池田寛会員が多摩の景観とプロバスの精神を謳いあげた作詞を提案され、この作詞をもとに、時を置かず、中村昭夫会員があまり凝らずに歌いやすく、明るく楽しいメロディをモットーに作曲されました。

このプロバスソングは、中村昭夫会員のリードで、第4回定例会からか、第5回からか、定例会の最後に歌われてきましたが、現在は、開会点鐘の後になりました。

誠に残念なことに、作詞された会友池田寛さんはこの2月に不帰の旅路につかれました。

5. 会報；東京多摩プロバスニュースの発行

会報の発行は、当時の総務委員会のメンバーにより、「東京多摩プロバスニュース」の看板の体裁・記事内容が検討され、隔月ごとに発行、経費の面からパソコンで編集・印刷することになりました。

特に記事内容については、単なる行事報告ではなく、卓話のみならず会員の豊富な経験などの寄稿を重点に編集することにいたしました。

第1号は、定例会、会長挨拶、プロバスの理念、プロバスソング、定例会の開催日と出席者数、来賓者氏名・挨拶、委員会報告、卓話、寄稿文(プロバスソングの生い立ち)などを掲載して2005年2月2日の第8回定例会に発行されました。

6. 東京多摩プロバスホームページの立ち上げ

当クラブのホームページ(以下HP)は、中村昭夫会員のからいで、多摩市国際交流センターのご支援を頂いて原型をまとめ、また、滝川益男会員の知人のHPの専門家村崎氏の助力を得て、約10カ月の準備期間がかかりましたが、2008年5月7日の定例会に開通の報告が出来ました。月々約百回のアクセスがあります。

長らく運用してきましたが、2017年11月に、永田宗義会員と上記村崎氏のご尽力により、メンテナンスのしやすい新しいシステムにリニューアルしました。

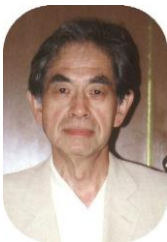
当クラブの会報・活動状況が期間ごとにわかり易くまとめて掲載されておりますので、下記のHPのURLを是非開いて、活用いただければと思います。

URL：<http://www.tokyo-tama-probusclub.com>

*注記；会報トップページの看板のQRコードからもアクセスできます。

イエーメン集落の旅(前編) 増山敏夫会員

建築家という職業柄、住いの集合体である集落は興味の対象である。殊にイエーメンは滅多に行けない。後輩の誘いで二つ返事で出かけた。ただ 25 年も前の旅で記憶も甚怪しい。当時の写真を頼りにスケッチ風に纏めてみた。9 月下旬だった。むろん直行便など無い故、フランクフルトに一泊、翌朝ルフトハンザ機でイエーメン首都・サナーに夕方到着、一週間の旅が始まった。



古代シバ王国の歴史を持つこの国は、古くから交易が盛んで集落遺産も豊かである。アラビア半島にあるので砂漠の国と思いがちだが、所謂砂漠は沿岸部だけで北イエーメンは古来「緑のアラビア」と呼ばれる。首都サナーは標高 2300m の高地で 9 月の気温は東京と変わらない。

イエーメンの集落のキーワードは、先ず「外敵」、昔から部族間の抗争が絶えず、外敵の備えが無くしては成り立たない。第二はイエーメンの地形的な特徴である内陸部の、WADI (涸れ谷) である。太古の昔、地殻が降雨により抉られて出来た。北イエーメンは標高が高く、地形の変化が激しく、緑豊か。南イエーメンは標高が低く涸れ谷の幅が広く、谷は砂漠化している。この涸れ谷との関係性が集落の条件となっている。第三は「眺望と涼風」。住いの特徴的な性格と言って良い。

●古都セイユンの街 (南イエーメン)

明け易し塔の祈りの大音響

回教国の旅の朝、旅行者は大抵びっくりする。街のモスクの尖塔からコーランの朗読が拡声器で流される。昔は聖職者の肉声が早朝の空に朗々と流れたはずである。一木もない赤茶けた岩の山塊の山麓に派生した街並だろう。歴史の厚みを感じさせる。今は博物館の宮殿からモスク、スーク (市場) を見下した。



喧噪や市場はみ出る日除傘

日差しが強い午後の市場前の広場に、白い日除け傘が埋る。間を縫って人々が動く。人の触れ合う密な空間だ。西欧の市場も仕掛けは同じだが、はるかに濃密である。

曲刀を帯の挨拶日焼けて

少年の帯に曲刀日焼けて未だ

丁度午後の礼拝が終ったのだろう。腰帯にジャンビア (短い曲刀) を挿す二人の正装の男が挨拶をしていた。むろん刃のない飾り。近くにまだあどけ



なさが残る少年が誇らしげに同じ格好をしていた。日本の元服の様なものだろう。

●砂漠の摩天楼・シバーム (南イエーメン)

旅の目的の一つがこの集落。起源は 3 世紀に遡る。この地方を治めた王が新に首都として築いた要塞都市である。350m×250m ほどの四周に城壁を廻らし、門は一か所。中に 5 階~8 階建の住棟 500 棟が縦横に連なる。今でも 7 千人が住む。複数のモスクとスーク、今は世界遺産事務所の宮殿がある。中世に 2 度の大洪水により殆ど消滅したが、その都度同じ日干し煉瓦で再建されている。古くから交易の要衝として栄え、多くの商人がインド洋を渡った。

四角形熱砂に浮ぶ角砂糖

前日セイユンに着陸する直前、涸れ谷の砂漠にまるで角砂糖を並べたような四角を上空から見ることが出来た。周りに地形的な規制がない故、外敵の防御の形として合理的な四角に納得した。



雀卓を囲む人垣夏陰

昼寝時メモ走らせる独逸人

訪れたのが丁度昼休みだった。城門の門前、新市街の日陰で住民が麻雀を楽しんでいた。牌の絵柄が少し異なるのに気付いた。インド洋を渡った歴史の跡を見る様で面白い。近くではドイツ人らしい観光客が一心にノートを取っていた。国民性が表れていて興味深かった。

南隅の城門から入ると、宮殿前の広場があり、住棟間の路地が伸びる。高さは 15~20m はあろうか、濃い影が落ちるビルの谷間である。向うにモスクの尖塔が見える。住棟は 1 階が玄関と家畜小屋、2 階が穀物蔵、3 階以上が住いになっている。従って 1、2 階は殆ど壁で外敵に対する備えになっている。全て日干し煉瓦を積んだ厚い壁の構造で 3 階以上の住いも窓は小さい。強い日差しを避ける住いの窓は、彫が深く素朴な木製の枠が嵌る。白や赤のカーテンが下がり硝子は見えない。涼しさがあれば済むのだろう。下層部が土壁、上層部が漆喰塗りに塗り分けられ、迫力のある景観をもたらす効果になっている。

夕暮れが迫る頃、砂漠の摩天楼に西日が当たる景観を見ろそうと、観光客が一斉に向い合う山の斜面に移動した。それは圧巻だった。やがて夕日が沈み、闇が訪れると、涸れ谷に灯る集落の景観はまた素晴らしかった。

大西日砂漠に浮ぶ軍艦島

摩天楼の灯る涸れ谷星月夜

カーテンの風の戯れ秋灯

1. コロナウイルス禍雑感

新型コロナウイルス感染に罹病された方々に心よりお見舞いと、亡くなられた方々には謹んでお悔やみとご冥福をお祈り申し上げます。感染力の強力な新型コロナウイルスが中国武漢市にて発生のニュースを初めて耳にしたのが今年年明けの正月の頃と記憶しています。

当初は特別な関心もなく単なるインフルエンザに似た感染症程度に考えていました。しかし我がプロバスクラブ研修・親睦委員会主催の活動内容の一環として、バス旅行の計画を当時の滝川委員長よりお手伝いを依頼され、共に京王観光桜ヶ丘営業所に伺い、[2月23日天皇陛下誕生日奉祝参賀と湯島天神梅まつり参詣]コースツアー参加を契約し2月の定例会に発表、参加予定19名の皆さんが楽しみにした矢先に、京王観光より新型コロナウイルス感染予防対策によりバス旅行の中止が決定され、止む無く皆さんにバスツアー中止を連絡した時に、初めて事の重大性を知り得た次第です。

3月に入り世界中が新型コロナウイルス感染情報が沸騰、4月に入るや外出自粛要請もあり、小生が関わる団体サークル等全てが余儀なく延期、中止となり初めての自粛生活に突入。当初は家の中にも身の置きどころも無いほど困惑しました。全てを諦めコロナ収束を祈りながらの巣籠りも生活リズムも完全に崩れ毎日が戸惑いの連続。止む無く早朝の散歩と午前中の家内のお供で運転手ポーター役で生活用品、日常食糧品の買い出しに付き合わされ、午後は熱中症予防で部屋の中での読本、テレビ鑑賞も幸い余り観た事の無いゴルフ、野球、過去のラグビー国際試合映像、懐かしのリバイバル番組、お笑いやクイズ番組等々こんなに多くのテレビ観賞も初めての体験、時折仲間に電話メールで安否確認、幸い皆さん元気で同じ様な生活に明け暮れていますとの返事。

7月に入り諸々のサークルの活動が僅かであるが開始されました。4月、5月、6月は各種団体サークルの総会の時期、其れがコロナ禍三密により会場の確保が出来ず全てが延期中止となるが、特に自治会やマンション理事会、地域自主防災会等は、止む無く屋外公園の日陰に臨時の会場を設営して開催する、世の中はやれリモート会議だ、オンラインだと盛んに報道するが、私の所属団体は私の様な高齢者や情報弱者が多く、旧態依然の対面会議で何とかクリヤーするも先々の予定は立たず、唯々コロナ収束と時間の経過を見守る事しか出来ない状況に、毎日の猛暑酷暑が追い打ちを掛ける、こんな時の役員は散々だ。

来年は私も傘寿を迎える歳となり、人生初めての体験は苦汁の選択の連続、10月に入りやっと猛暑も遠のき秋風と共に心地よい季節を迎えホッと息、毎日の新型コロナ感染者数やトランプ情報に惑わされる日々。願わくば新型コロナウイルス感染の早期収束・世界中の経済活動正常化・

小林務会員



私共高齢者の年金削減だけは無い事を祈るこの頃です。

「明けない夜は無い、止まない雨も無い」

先ずは健康第一プロバス活動頑張ろう。

2. 連光寺本村見取図 大正時代(関東大震災前)

小島明会員

東京都南多摩郡多摩村連光寺字本村は、およそ100年前(現在の連光寺1丁目～3丁目)はこの位の戸数しかありませんでした(下図参照)。又、集落は3つの部落にわかれ、上の街道側、西村側、新田側となっており今でも春日神社例大祭は隔年ごとに3つの部落が交代で年番を務めております。

そして古い家には屋号があり、■の富澤家(村長・初代町長・初代市長)の家は表と言います。■の小島家は糸屋といいそのほかにも、隠居・新屋・別荘・高見・旗屋・極楽・下極楽・下・等がありますが、現在ほとんど使われなくなりました。今は、曲がりくねった川崎街道及び乞田川は整備され、支流も埋設され、2000件を越える住宅地となりました。唯一昔ながらの風景が残っているのは自宅から上の旧農水省鳥獣試験場、現在林野庁高尾分室から旧聖蹟記念館に通じるあぜ道は昔のままです。

散策がてら歩いてみてはいかがでしょうか。



連光寺本村見取図 大正時代 (小島明会員作図)

◇◇◇ お知らせ ◇◇◇

—当クラブのインスタグラムサイト開設—

このたび、会員間および他クラブ等との情報交換、親睦を深める目的で東京多摩プロバスクラブ専用のインスタグラムサイトを開設しました。インスタグラムは主に写真や短い動画を投稿、共有できるサービス(SNS)で、スマホやパソコン等で利用できます。会員の皆様から当クラブのサークル活動その他の諸活動で撮った公開可能な写真をEメール(または郵送等)で提供いただければ掲載できます。また、インスタグラムのアカウントを取得し当クラブの専用サイトをフォローすると、サイト更新時に通知されるので便利です。

皆様のご協力よろしくお願いいたします。

専用サイトは「東京多摩プロバスクラブ」で検索！

(広報委員会 伊藤健一会員記)

◇◇◇ ハッピーバースディ ◇◇◇

1. 7月誕生日を迎えられました！



左から鈴木泰弘・永井峰子・片倉満各会員
鈴木さん; 人生百年時代に 76 歳もう 24 年しかなんのまだ 24 年も
…か
片倉さん; 73 歳の皮膚に老いが目立ちますが、前を向いて生きて
ます

2. 8月誕生日を迎えられました！



高村さん; 83 歳まで生き延び
るとは思っていなかったが、
感謝です！

阪東さん; もうまだか、まだ
か、93 歳。ピントはずれの半
人前

左から高村弘毅・阪東照子両会員

3. 9月誕生日を迎えられました！



左から登坂征一郎・増山敏夫・秋山正仁各会員
登坂さん; 八十路越え、あしたの光また新た
増山さん; この一年に感謝、来る一年も屈託なく生きたし
秋山さん; 納得のするまで計る血圧計(シルバー川柳より) 82 歳

4. 9・10月誕生日を迎えられました！



廣瀬昌英会員(9月)

廣瀬さん; 入会して間もないのに
恐縮です。これからも宜しく！



藤寄喬子会員(10月)

藤寄さん; 寄る年波の猛きこと頑
張れ私の防波堤！先輩に最敬礼

◇◇◇ 誕生祝いの記念品 ◇◇◇

小さな水差しボトル



高村弘毅会長

ご高齢者が多い本会の
事情を考量し、ミニ旅行に
適切な軽量のミニ水筒(容
量: 約 120cc)を用意いた
しました。

冬・夏に適した水温を容
器の消毒を怠らず準備し、
火傷に注意してご愛用下
さい。

◇◇◇ 編集後記 ◇◇◇

テレビの報道に左右される昨今感わされず、読み応え
のある第 91 号をお届けすることが出来た。

○巻頭言飯作幹事が、新会員と共に周囲に感動を与える
プロバスを目指そうと指示。○橋シリーズでは永田会員
が、少年を背に、天翔けるペガサスの絵がある「風の橋」
を紹介。○委員会報告は、延期・中止が重なり、バス旅
行の会費返却など煩雑。今年度発足の会員委員会は、他
人事とせず自覚が必要。○登坂会員の過去 16 年間の記
録発表は懐かしく、関係者全員に敬意。○「イエメン集落
の旅」二つ返事で参加した増山会員、意義ある語り立板に
水。また、少年の帯に曲刀、日焼け未だと詠むその父性
愛に私はホロリ。以前は別席で続きの花を咲かせ夜風を
楽しんだが今は御法度。○小林会員の日課は奥方とスー
パーでランデブー。明けない夜はないと泰然。○小島会
員の連光寺村の歴史は興味津々。

皆々、人柄善哉。次回乞う。

『余談』京都八坂神社では毎年二回、茅の輪潜りの祭礼
を行うが、今年はコロナの厄を祓う、都合三回挙行了た。

明治にコレラが流行した時も三回行ったと記実文に残
されている。其れ以来 143 年振りの行事を済ませたと聞
いた。誰しも早い収束を願っている。

(広報委員 阪東照子会員記)